

令和2年度版(2020年度版)『小学算数』 年間指導計画案（6年）

学校の授業以外の場での学習が可能と 考えられる学習活動を考慮した詳細版

本資料は、令和2年度版教科書『小学算数』に基づいて、学校での授業と学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。学校の授業以外の場において取り組む学習活動をできるだけ多く取り入れる場合を想定して示した一例ですので、地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。

■本資料の見方

本資料では、①習熟や定着のための確認ページ、②既習内容の復習ページ、③学習内容の日常生活への活用ページを中心に、「学校の授業以外の場での学習が可能であると考えられる教材・学習活動」と位置づけ、表の右端の列に示しています。

1 分数のかけ算とわり算（分数のかけ算とわり算のしかたを考えよう）（P.10～16）

4月中旬【4時間】【3時間】

【単元の目標】

①(分数)×(整数)、(分数)÷(整数)の計算の仕方を理解し、その計算の仕方を既習の分数の性質や計算の仕方を使って考えるとともに、多角的に対した過程を振り返り、学習したことを今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

①-1-1 (分数)×(整数)、(分数)÷(整数)の計算の仕方を理解し、その計算ができる。

①-1-2 (分数)×(整数)のかけ算とわり算を、整数や小数のかけ算とわり算の知識としてとらえ、(分数)×(整数)、(分数)÷(整数)の計算を単位分数に着目して考えている。

①-1-3 既習の整数や小数のかけ算、わり算の学習と関連付けて、分数のかけ算とわり算の学習に活用しようとしている。

学校での授業と学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学校での授業時間を示しています。

時	目標	学習活動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	□(分数)×(整数)の意味を理解し、その計算ができる。 例 2/3×3	+(分数)×(整数)の計算の意味、計算の仕方を考える。	
2	□(分数)÷(整数)の意味を理解し、その計算ができる。 例 4/5÷2、3/4÷2	+(分数)÷(整数)の計算の意味、計算の仕方を考える。	
4	□学習内容の理解を確認する。	□「たし算のポイント」P.10に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、間違っているか→たし算は、必ず確認する。

学校の授業以外の場において取り組む学習活動には、赤いアミを施すとともに、取り扱う際の指導上の留意事項などを示しています。

※本資料で示した各単元の学習活動、配当時間などは、今後公開される各種情報によって、変更となる可能性があります。ご了承ください。

『小学算数』 6年 年間指導計画案

1 分数のかけ算とわり算〔分数のかけ算とわり算のしかたを考えよう〕 (P. 10～16)

4月中旬〔4時間〕 **〔3時間〕**

【単元の目標】

- ・(分数)×(整数), (分数)÷(整数)の計算の仕方を理解し, その計算の仕方を既習の分数の性質や計算の仕方を使って考えとともに, 多面的に検討した過程を振り返り, 学習したことを今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(分数)×(整数), (分数)÷(整数)の計算の仕方を理解し, その計算ができる。

思・判・表…分数のかけ算やわり算を, 整数や小数のかけ算やわり算の拡張としてとらえ, (分数)×(整数), (分数)÷(整数)の計算を単位分数に着目して考えている。

態 度…既習の整数や小数のかけ算, わり算の学習と関連づけて, 分数のかけ算やわり算の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 9)は, 短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○(分数)×(整数)の意味を理解し, その計算ができる。	・(分数)×(整数)の計算の意味, 計算の仕方を考える。 例 2/7×3	
2 ・ 3	○(分数)÷(整数)の意味を理解し, その計算ができる。	・(分数)÷(整数)の計算の意味, 計算の仕方を考える。 例 4/5÷2, 3/5÷2	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
4	○学習内容の理解を確認する。	○「たしかめポイント」(P. 16)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際, 児童がわからなかった問題は, 個別に支援する。

2 対称な図形〔ぴったり重なる形を調べよう〕 (P. 18～32)

4月中旬～4月下旬〔11時間〕 **〔9時間〕**

【単元の目標】

- ・対称な図形を構成したり, 作図したりすることを通してその意味や性質を理解し, 図形を構成する要素の関係を考察して図形の性質を見いだすとともに, 考察した過程を振り返り, 今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…線対称な図形や点対称な図形の意味や性質を理解し, 線対称な図形や点対称な図形を構成したり, 作図したりすることができる。

思・判・表…既習の図形を線対称や点対称の観点から見直し, 図形を分類整理したり, 分類した図形の特徴を説明したりしている。

態 度…身の回りから対称な図形を見つけ, 対称性に着目して図形を考察・観察し, 対称な図形の美しさに気づくとともに, 学習したことを振り返り, 学習したことを生活や今後の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 17)は, 短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	整った形 (P. 19～21) 2時間		
1 ・	○単元アプローチ (P. 18) ・身の回りにある美しい形を探し, その特徴を考える。		
2	○アルファベットの形の特徴に関心をもち, 仲間分けに取り組むとともに, 線対称な図形, 点対称な図形の意味を理解する。	・アルファベットの形の特徴を調べる。 ・線対称な図形, 対称の軸の意味を知る。 ・点対称な図形, 対称の中心の意味を知る。	・P. 18の写真を見て, わかったことや思ったことをノートにまとめさせる。 ・可能であれば, デジタルコンテンツを活用し, 線対称や点対称な図形の特徴を確認させる。

2 線対称な形 (P. 22~24) 2時間			
3	○線対称な図形の性質を理解する。	・線対称な図形で、重なりあう点や辺を見つける。 ・線対称な図形で、対応する点と対称の軸との長さや交わり方を調べる。	
4	○線対称な図形を作図することができる。	・線対称な図形(方眼あり・なし)を作図する。	
3 点対称な形 (P. 25~27) 2時間			
5	○点対称な図形の性質を理解する。	・点対称な図形で、対応する点と対称の中心との長さを調べる。	
6	○点対称な図形を作図することができる。	・点対称な図形(方眼あり・なし)を作図する。	
4 いろいろな図形の対称 (P. 28~31) 4時間 (3時間)			
7	○四角形を線対称や点対称の観点から考え、分類した特徴を説明することができる。	・四角形を線対称や点対称の観点から調べる。	
8	○正多角形を線対称や点対称の観点から考え、分類した特徴を説明することができる。	・正多角形を線対称や点対称の観点から調べる。	
9 ・ 10	○身の回りから対称な図形を見つけようとする。	【Hello! Math】 ・都道府県や市町村のマークを探し、対称の見方で調べる。 ・道路標識や地図記号などを対称の見方で調べる。	・調べ活動に取り組み、わかったことをノートなどにまとめさせる。授業では、調べたことの発表に重点を置くことにより、 <u>1時間</u> 扱いとする。
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
11	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 32)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

3 文字と式〔文字を使った式に表そう〕 (P. 34~40)

5月上旬~5月中旬 [6時間] [5時間]

【単元の目標】

- ・数量やその関係を文字を用いて式に表すことを理解し、文字にはいろいろな数があてはまると考え、数量やその関係を文字を用いた式で表すよさに気づくとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…数量やその関係を、□や△などの代わりに、 a 、 x などの文字を用いて式に表す方法を理解し、文字を用いて式に表すことができる。

思・判・表…数量やその関係を式に表すのに、文字を用いて簡潔に表すよさや一般性を見いだしている。

態 度…数量の関係を考察したり表現したりするのに、文字 a 、 x などを用いた式で数量の関係を表すよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 33)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 文字を使った式 (P. 34~35) 1時間			
1	○単元アプローチ (P. 34) ・和菓子屋での買い物について、代金を式に表すことを通して、具体的な場面を式に表すことへの関心を高める。		
	○数量の大きさを、文字を用いた式で一般的に表すことを理解する。	・和菓子1個と100円のどら焼きを買う買い物の代金を、文字を用いて式に表す。	

		・まんじゅう4個を買う買い物の代金を、文字を用いて式に表す。	
2 文字にあてはまる数 (P. 36~37) 2時間			
2	○加法や減法の場面で、式の中の文字にあてはまる数の求め方を理解する。	・ノート1冊と、250円の下じき1枚を買い、代金が360円するとき、ノート1冊の値段の求め方を考える。	
3	○乗法がふくまれる場面で、式の中の文字にあてはまる数の求め方を理解する。	・3周すると1.5kmになるコース1周の道のりの求め方を考える。 ・1個130円のと菓子とを80円の箱につめるとき、1000円で買えると菓子の数を考える。	
3 2つの文字を使った式 (P. 38) 1時間			
4	○数量の関係を、2つの文字を使って式に表すことができる。	・縦の長さが4cmの長方形の横の長さとの面積の関係を調べ、式に表す。	
4 式のよみ方 (P. 39) 1時間			
5	○文字を用いた式から、どんな場面を表しているかを考え説明することができる。	・買い物の代金について、文字を用いた式から、どんな買い物をしたのかよみとる。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
6	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 40)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 254)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

4 分数のかけ算【分数をかける計算のしかたを考えよう】 (P. 42~56)

5月中旬~5月下旬 [12時間] **[10時間]**

【単元の目標】

- ・(分数)×(分数)の意味や計算の仕方を理解し、その計算の仕方を既習の計算のきまりや計算の仕方を使って考えるとともに、多面的に検討した過程を振り返り、学習したことを今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(分数)×(分数)の意味や計算の仕方を理解し、その計算ができるとともに、分数の場合も整数と同じように面積や体積の求積公式や交換、結合、分配法則が成り立つことを理解している。

思・判・表…既習の整数や小数の計算の仕方をもとに、(分数)×(分数)の計算の仕方を考え、説明している。

態 度…既習の整数や小数の計算の仕方をもとに、分数の計算も同じように考えることができるというよさに気づき、学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 41)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 分数をかける計算 (P. 42~50) 7時間 (6時間)			
1	○単元アプローチ (P. 42)	・既習のかけ算について振り返り、乗数が分数の計算を意識する。	
2	○分数をかける意味と、(分数)×(単位分数)の計算の仕方を理解する。	・分数をかける計算について、その式になる理由を説明する。 ・ $4/5 \times 1/3$ の計算の仕方を考える。	・P. 42の内容に取り組み、これまでに学習したかけ算について振り返らせる、今後の学習への見通しを持たせておくことで、 <u>1時間扱い</u> とする。
※	「よみとろう あらわそう」(P. 274)で、分数の乗法で使用する2本数直線図のよみ方・かき方を確認する。		

3 ・ 4	○(分数)×(分数)の計算の仕方を考え説明するとともに、その計算ができる。	・ $4/5 \times 2/3$ の計算の仕方を考える。 ・(分数)×(分数)の計算の仕方をまとめる。	
5	○途中で約分できる(分数)×(分数)の計算、整数を含む分数の乗法の計算ができる。	・ $5/6 \times 9/10$ の計算の仕方を考える。 ・ $3 \times 2/5$ の計算の仕方を考える。	
6	○帯分数を含む、(分数)×(分数)の計算、3つの分数の乗法の計算ができる。	・ $4/5 \times 1\frac{1}{3}$ の計算の仕方を考える。 ・ $9/10 \times 2/3 \times 5/6$ の計算の仕方を考える。	
7	○乗数の大きさによる被乗数と積の大小関係を理解する。	・分数をかけるときの乗数と積の大きさの関係を調べる。	
2 分数のかけ算を使う問題 (P. 51～53) 3時間			
8	○辺の長さが分数の場合も、求積公式を用いて面積が求められることを理解する。	・辺の長さが分数で表されている場合も、面積公式が適用できることをまとめる。	
9	○時間を分数で表せば、速さの公式を用いられることを理解する。	・時間が分数で表される場合も、速さの公式が適用できることをまとめる。	
10	○分数の乗法でも、整数や小数の乗法と同じような計算のきまりが成り立つことを理解する。	・計算法則が分数でも成り立つことを調べる。	
3 積が1になる2つの数 (P. 54) 1時間			
11	○逆数の意味とその求め方を理解する。	・逆数の意味を知る。 ・帯分数、整数、小数の逆数を求める。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいがやすい問題」(P. 55)で、学習内容をより確かなものにする。		
12	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 56)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 255)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

5 分数のわり算〔分数でわる計算のしかたを考えよう〕 (P. 58～73)

6月上旬～6月中旬 [13時間] [11時間]

【単元の目標】

- ・(分数)÷(分数)の意味や計算の仕方を理解し、その計算の仕方を既習の計算のきまりや計算の仕方を使って考えるとともに、多面的に検討した過程を振り返り、学習したことを今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- | | |
|-------|--|
| 知・技 | …(分数)÷(分数)の意味や計算の仕方を理解して、その計算ができる。 |
| 思・判・表 | …既習の整数や小数の計算の仕方をもとに、(分数)÷(分数)の計算の仕方を考え、説明している。 |
| 態度 | …既習の整数や小数の計算の仕方をもとに、分数の計算も同じように考えることができるというよさに気づき、学習に活用しようとしている。 |

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.57)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 分数でわる計算 (P.58~68) 9時間 (8時間)			
1	○単元アプローチ (P.58)		
・	・既習のわり算について振り返り、除数が分数の計算を意識する。		
2	○分数をわる意味と、(分数)÷(単位分数)の計算の仕方を理解する。	・分数をわる計算について、その式になる理由を説明する。 ・ $5/8 \div 1/3$ の計算の仕方を考える。	・P.58の内容に取り組み、これまでに学習したかけ算について振り返らせる、今後の学習への見通しを持たせておくことで、 <u>1時間扱いとする</u> 。
※	「よみとろう あらわそう」(P.275)で、分数の除法で使用する2本数直線図のよみ方・かき方を確認する。		
3	○(分数)×(分数)の計算の仕方を考え説明するとともに、その計算ができる。	・ $5/8 \div 2/3$ の計算の仕方を考える。	
4		・(分数)÷(分数)の計算の仕方をまとめる。	
5	○途中で約分できる(分数)÷(分数)の計算、整数を含む分数の除法の計算ができる。	・ $2/3 \div 8/9$ の計算の仕方を考える。 ・ $2 \div 3/4$ の計算の仕方を考える。	
6	○帯分数を含む、(分数)÷(分数)の計算、3つの分数の乗法と除法のまじった計算ができる。	・ $5/8 \div 1\frac{1}{3}$ の計算の仕方を考える。 ・ $9/10 \times 2/3 \div 4/5$ の計算の仕方を考える。	
7	○整数、小数、分数のまじった乗法、除法の計算の仕方を考え、説明することができる。	・ $0.7 \div 2/5$ の計算の仕方を考える。 ・ $5 \div 2/3 \times 0.3$ の計算の仕方を考える。	
8	○整数、小数の乗法、除法のまじった計算の仕方を考え、説明することができる。	・ $28 \div 12 \times 3 \div 0.7$ の計算の仕方を考える。	
9	○除数の大きさによる被除数と商の大小関係を理解する。	・分数でわるときの除数と商の大きさの関係を調べる。	
2 分数のわり算を使う問題 (P.69) 1時間			
10	○時間を分数で表せば、速さの公式を用いられることを理解する。	・時間が分数で表される場合も、速さの公式が適用できることをまとめる。	
3 倍を表す分数 (P.70~71) 2時間			
11	○倍を表す数を分数で表す場合があることを理解する。	・グレープジュースの量は、オレンジジュースの量の何倍にあたるかを考える。 ・倍を表す数を分数で表す場合があることを知る。	
12	○割合が分数で表されているときも、比較量や基準量を求めることができる。	・割合を表す分数を用いて、比較量を求める。 ・割合を表す分数を用いて、基準量を求める。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(P.72)で、学習内容をより確かなものにする。		
13	○学習内容の理解を確認する。	○「たしかめポイント」(P.73)に取り組む	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.256)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● **どんな計算になるか考えよう** (P. 74) 6月中旬 [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○乗法・除法を使って問題を解決することを通して、演算を決定する力を伸ばす。	・問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて、解決する。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

6 円の面積 [円の面積の求め方を考えよう] (P. 76~86)

6月下旬 [8時間] [7時間]

【単元の目標】

- ・円の面積の計算による求め方を理解し、図形の構成要素に着目し、既習の求積可能な図形の面積の求め方をもとに考えたり説明したりするとともに、円の面積の公式を導いた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…円の面積の計算による求め方を理解し、円の面積を公式を使って計算で求めることができる。
- 思・判・表**…方眼の数を数えたり、既習の図形に変形したりするなどして、円の面積の求め方や公式を考え、説明している。
- 態 度**…円の面積の求め方を考えるのに、正多角形と関連づけたり方眼の数を数えたりして考えた過程を振り返り、学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 75) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 2	○単元アプローチ (P. 76) ・図形の面積の大きさを比べる活動を通して、既習の図形の面積の求め方を振り返るとともに、未習の円の面積の求め方を意識させる。	・半径10cmの円の面積の求め方を考える。 ・方眼の数を数えたり、正多角形と関連づけたりして、半径10cmの円のおよその面積を求める。 ・半径10cmの円の面積と、半径を1辺とする正方形の面積を比べる。	・これまでに学習した図形で面積が求められるものを調べ、また円の面積について学習していないことを特定しておくことにより、1時間扱いとすることもできる。
3 4	○円の求積公式を導くとき、円の分割・合成から等積変形へと筋道立てて考えるとともに、円の面積を、公式を使って求めることができる。	・円の面積を求める公式を考える。 ・円の面積を求める公式をまとめる。	・可能であれば、デジタルコンテンツを活用し、円を分割して並べ変えることへのイメージを持たせることにより、1時間扱いとすることもできる。
5	○円の面積を求める公式を使って、円の面積についての理解を深める。	・半径4cmの円と直径4cmの円で円周の長さや面積を比べる。 ・円の1/2や1/4の大きさの図形の面積の求め方を考える。	
6 7	○円を含む複合図形の面積の求め方を考え、説明することができる。	・円を含む複合図形の面積の求め方を考え、説明する。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
8	○学習内容の理解を確認する。	○「たしかめポイント」(P. 86)に取り組む	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

7 場合の数〔ならび方や組み合わせ方を調べよう〕 (P. 88～97)

7月上旬〔7時間〕【6時間】

【単元の目標】

- ・ 順列や組み合わせについて、起こりうる場合を落ちや重なりがないように調べる方法を理解し、事象の特徴に着目し、落ちや重なりがないように順序よく筋道立てて考えるとともに、多面的に検討した過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…順列や組み合わせについて、起こりうる場合を調べるには、ある観点に着目したり、図や表などに表したりすればよいことを理解し、落ちや重なりがないように、起こりうる場合を順序よく調べることができる。
- 思・判・表**…起こりうる場合を調べるのに、事象の特徴に着目し、図や表などを用いたり、項目を記号に表したりして、順序よく筋道立てて考えている。
- 態度**…起こりうる場合について、落ちや重なりがないように、図や表などを用いて順序よく調べたことを振り返り、学習や生活に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 87) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1] ならび方 (P. 88～92) 4時間			
1	○単元アプローチ (P. 88)		
・	・手をつないだならび方の調べ方を考察する。		
2	○ならび方を、落ちや重なりがないように順序よく考え説明することができる。	・4人で写真を撮るとき、1人を左はしの位置にした場合のならび方を考える。 ・ならび方を調べる方法をまとめる。	
3	○ならび方を、落ちや重なりがないように、順序よく調べることができる。	・10円玉を3回投げたときの、表と裏の出方の起こりうる場合を、図を用いて調べる。	
4	○条件に合った場合を、順序よく筋道立てて考え、説明することができる。	【Hello! Math】 ・条件に合った体育館への行き方を調べる。	
2] 組み合わせ方 (P. 93～95) 2時間			
5	○組み合わせ方を、落ちや重なりがないように順序よく考え説明することができる。	・4つの組でバスケットボールの試合をするとき、試合数の組み合わせ方を考える。 ・組み合わせ方を調べる方法をまとめる。	
6	○組み合わせ方を、落ちや重なりがないように、順序よく調べることができる。	・5種類のケーキから、3種類を選んで買う場合の買い方を調べる。 ・4枚のカードから3枚選んだ場合のならび方を調べる。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(P. 96)で、学習内容をより確かなものにする。		
7	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 97)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 257) は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● 活用〔円の面積を使って〕 (P. 98～99) 7月上旬〔1時間〕

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○色をぬった部分をあわせた形をとらえ、面積の求め方を説明することができる。	・多角形の頂点を中心に円の一部をかき、色をぬり、その面積の求め方を考える。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

* 復習 (P. 100～101) 配当時数なし

※	「復習」(P. 100～101) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	--

8 角柱と円柱の体積〔立体の体積の求め方を考えよう〕 (P. 104～110)

9月上旬〔6時間〕 **〔5時間〕**

【単元の目標】

- ・角柱や円柱の計算による求め方を理解し、図形の構成要素に着目し、既習の求積可能な立体の体積の求め方をもとに考えたり説明したりするとともに、角柱や円柱の体積の公式を導いた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…角柱や円柱の体積は(底面積)×(高さ)で求められることを理解し、公式を用いて、角柱や円柱の体積を求めることができる。

思・判・表…角柱や円柱の体積を求めるのに、図形の構成要素に着目して、既習の求積方法に基づいて考え、説明している。

態 度…角柱や円柱の体積に関心を持ち、それらを求める公式を導き出す過程を振り返り、学習や生活に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 103) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○単元アプローチ (P. 104)		
・	・既習の立体について、体積の比べ方を考え、未習の立体の体積を求めることに興味を持つ。		
2	○直方体の体積は、底面積と高さの積で求められると考え、求め方を説明することができる。	・直方体の体積を、底面積と高さを用いてとらえ直す。	
3	○角柱の体積の求め方を考え、求めることができる。	・三角柱の体積の求め方を考える。 ・角柱の体積を求める公式をまとめる。	
4	○円柱の体積の求め方を考え、求めることができる。	・円柱の体積の求め方を考える。 ・円柱の体積を求める公式をまとめる。	
5			
※	「つなげる算数」(P. 109) は、直方体を組み合わせた立体の体積を、(底面積)×(高さ)の公式でとらえ直す。		
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
6	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 110)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 258) は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

9 比〔2つの数で割合を表そう〕 (P.112~123)

9月中旬~10月上旬 [9時間] [7時間]

【単元の目標】

- 2つの数量の割合を表す方法として比を理解し、既習の2つの数量の割合と結びつけて考えるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…比による表し方や比の値、及び等しい比の意味を理解し、2つの数量の割合を比で表したり、それと等しい比をつくったりすることができる。
- 思・判・表**…日常の事象における数量の関係に着目し、比による表し方について、2つの数量の割合と結びつけて考えている。
- 態度**…身の回りから比が用いられる場面を探したり、比を用いて解決したりして、学習や生活に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.111)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	2つの数で表す割合 (P.112~115) 3時間 (2時間)		
1	○単元アプローチ (P.112) ・ミルクコーヒーのコーヒーとミルクのまぜ方について、わかりやすく表す方法を考える。		
2	○ミルクコーヒーのコーヒーとミルクのまぜ方を考え、似ているまぜ方を説明することができる。	・ミルクコーヒーのコーヒーとミルクのまぜ方を考える。 ・コーヒーとミルクの似ているまぜ方を探し、発表する。	・P.112のミルクコーヒーをつくり、コーヒーとミルクのまぜ方を表現する活動は自粛し、P.113のミルクコーヒーのまぜ方の表を考察することから始めることにより、1時間扱いとする。
3	○2つの数量の割合を比で表したり、比の値を求めたりすることができる。	・比を用いた考え方、表し方を知る。 ・比の値の意味を知る。	
2	等しい比 (P.116~118) 3時間		
4	○比の値が等しい比は、「2つの比は等しい」関係にあることを理解する。	・等しい比の意味を知る。	
5	○等しい比をつくることができる。	・等しい比の性質と等しい比のつくり方を考える。	
6	○等しい比の性質を使って、比を簡単にすることができる。	・120:40の比を小さい整数の比で表す方法を考える。 ・小数や分数で表された比を簡単にする方法を考える。	
3	比を使った問題 (P.119~120) 2時間		
7	○比の性質を使って、未知の数量の求め方を考え、説明することができる。	・比を使って学級の旗の縦と横の長さの関係を表し、問題を解決する。	
8	○比の性質を使って、全体の量を比例配分する方法を考え、説明することができる。	・150mLのドレッシングを、酢とサラダ油の量が2:3になるようにまぜるとき、それぞれの量を求める。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P.122)で、学習内容をより確かなものにする。		
9	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.123)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.259)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

10 拡大図と縮図〔形が同じで大きさのちがう図形を調べよう〕 (P. 126～141)

10月中旬～10月下旬 [10時間] [9時間]

【単元の目標】

- ・拡大図や縮図を観察したり、作図したりすることを通してその意味や性質を理解し、図形を構成する要素の関係を考察して図形の性質を見いだすとともに、考察した過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…拡大図や縮図の意味や性質を理解し、拡大図や縮図を作図することができる。

思・判・表…図形を構成する要素の關係に着目して、拡大図や縮図の性質を見だし、図形を拡大したり、縮小したりする方法を考え説明している。

態度…身の回りにある拡大図や縮図に関心を持ち、実際に用いられている場面を見つけたことを振り返り、学習や生活に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 125)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	形が同じで大きさのちがう図形 (P. 126～129) 2時間		
1	○単元アプローチ (P. 126)		
2	・家の写真で、縦に2倍したもの、横に2倍したもの、縦、横ともに2倍にしたものなどを示して、形が同じに見えるものはどれかを考える。	・家の形や大きさについて調べる。 ・拡大する、縮小する、拡大図、縮図の意味を知る。 ・拡大図や縮図の対応する辺や対応する角の大きさを調べる。	・P. 126の写真を見て、わかったことや調べたことをノートにまとめさせる。 ・可能であれば、デジタルコンテンツを活用し、拡大図と縮図の特徴を確認させる。
	○拡大図・縮図の意味やその性質を理解する。		
2	拡大図と縮図のかき方 (P. 130～133) 4時間		
3	○方眼を手がかりにして、拡大図や縮図を作図することができる。	・方眼紙を使って、拡大図や縮図をかく。	
4	○辺の長さや角の大きさをはかって、拡大図や縮図を作図することができる。	・拡大図や縮図をかくには、どの辺の長さや角の大きさをはかればよいかを考える。 ・定規、コンパス、分度器を用いて拡大図や縮図をかく。	
5	○1つの点を中心にして、三角形の拡大図や縮図を作図することができる。	・1つの点を中心にした、三角形の拡大図や縮図のかき方を考える。	
6	○1つの点を中心にして、四角形の拡大図や縮図を作図することができる。	・1つの点を中心にした、四角形の拡大図や縮図のかき方を考える。	
3	縮図と縮尺 (P. 134～139) 3時間		
7	○縮尺の意味や表し方を知り、縮尺を利用して、縮図上の長さから実際の長さを求める方法を理解する。	・「縮尺」の用語とその意味を知る。 ・縮図上に表された長さから、実際の長さを求める。	
8	○縮図をかいて、実際にはかえることのできない長さを求める方法を理解する。	・縮図を使って、実際にはかえることのできない校舎の高さを求める。	
9	○縮図の考えを使って、はかりにくいものの高さのはかり方を調べようとする。	【Hello! Math】 ・縮図の考え方をを使って、身の回りにはかりにくいものの高さをはかる。	

学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	「わかっているかな?」「まちがいがやすい問題」(P.140)で、学習内容をより確かなものにする。		
10	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.141)に取り組む	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	「ぐっとチャレンジ」(P.260)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

11 比例と反比例〔2つの量の変わり方を調べよう〕 (P.144~165)

10月下旬~11月中旬 [13時間] [12時間]

【単元の目標】

- ・比例や反比例の関係について理解し、伴って変わる2つの数量やそれらの関係に着目し、表、式、グラフを用いて、その変化や対応の特徴を考えるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…比例や反比例の関係について理解し、比例や反比例の関係にある2つの数量の関係を、表、式、グラフに表すことができる。

思・判・表…伴って変わる2つの数量やそれらの関係に着目し、表、式、グラフを用いて、比例や反比例の関係の特徴を考えている。

態 度…伴って変わる2つの数量の関係を考察したことを振り返り、学習や生活に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.143)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 比例 (P.144~146) 3時間			
1 ・ 2	○身の回りから伴って変わる2つの数量関係になっているものを探し、その関係を考察することができる。	・身の回りから伴って変わる2つの数量を見つけ、その変化の仕方がどのようなになっているかを、表を使って確認する。	・P.144のともなって変わる2つの量を調べる活動に取り組みせ、授業ではP.113の変わり方を比べる活動に集約することにより、1時間で扱うことも考えられる。
3	○比例の関係について、伴って変わる2つの量の関係を考え説明することができる。	・比例する2つの量の関係について、表を見て、いつでも成り立つかどうかを調べる。 ・比例の性質をまとめる。	
2 比例の式とグラフ (P.147~153) 4時間			
4	○yがxに比例するとき、 $y = (\text{きまった数}) \times x$ と式に表すことができる。	・yがxに比例するとき、対応するxとyの値の関係を考える。 ・xとyの値の関係を式に表す。 ・yがxに比例するとき、xとyの関係は式に表せることをまとめる。	
5 ・ 6	○比例の関係をグラフに表し、そのグラフから、値をよみとることができる。	・比例の関係をグラフに表す。 ・比例の関係を表すグラフの特徴をまとめる。 ・比例の関係を表すグラフから、xやyの値をよみとる。	・P.149のグラフにかきこむ活動に取り組みせ、授業では比例のグラフの特徴の考察や、グラフを使ったxやyの値のよみ取りを重点的に扱うことにより1時間で扱うことも考えられる。
7	○比例のグラフの考察を通して、比例のグラフへの理解を深める。	・2本の比例のグラフから、いろいろなことをよみ取り、発表する。	
3 比例の利用 (P.155~157) 2時間			
8 ・ 9	○日常的な事象に比例を見だし、比例の考えを生かした解決方法を説明することができる。	・比例の考えを使って、くぎ100本用意する方法を考えたり、くぎ700gの本数を求めたりする。 ・比例の考えを使って、紙でつくった象の形の面積を求める。	

4 反比例 (P. 158~159) 2時間		
10	○反比例の関係について理解する。	・表から、伴って変わる2量の間 係を調べる。 ・反比例の関係について知る。
5 反比例の式とグラフ (P. 160~163) 2時間		
11	○yがxに反比例するとき、 $y = (\text{きまった数}) \div x$ と 式に表すことができる。	・yがxに反比例するとき、対応 するxとyの値の関係を考える。 ・xとyの値の関係を式に表す。 ・yがxに反比例するとき、xと yの関係を式に表せることを まとめる。
12	○反比例の関係をグラフに 表すことができる。	・反比例の関係をグラフに表す。 ・反比例の関係を表すグラフの特 徴を話し合う。
学習のまとめ 1時間 (0時間)		
※	「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(P. 164)で、学習内容をより確かなものにする。	
13	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 165) に取り組む。
※	「ぐっとチャレンジ」(P. 261)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。	
※	・答え合わせまで行う。その際、児童がわから なかった問題は、個別に支援する。	

12 およその面積と体積〔およその面積と体積を考えよう〕(P. 166~168)

11月中旬〔2時間〕

【単元の目標】

- ・不定形な図形の面積や体積について、その概形をとらえると、およその面積や体積が求められることを理解し、図形を構成する要素や性質に着目し、その面積や体積を筋道立てて考えとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…不定形な図形の面積や体積について、その概形をとらえるとおよその面積や体積が求められることを理解し、その面積や体積を求めることができる。
- 思・判・表**…図形を構成する要素や性質に着目し、不定形な図形の面積や体積を求めるのに、その概形をとらえて考えている。
- 態 度**…身の回りにある不定形な図形について、その概形をとらえておよその面積や体積を調べたことを振り返り、学習や生活に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 およその面積 (P. 166~167) 1時間			
1	○不定形な図形の面積について、既習の図形としてとらえ、公式を使って求めることができる。	・琵琶湖のおよその面積の求め方を考える。	
2	○不定形のもの体積を、既習の立体と考え、およその体積を求めることができる。	・米袋のおよその体積を、概形をとらえて求める。	

13 資料の調べ方〔資料の特ちょうを調べよう〕 (P. 170~193)

11月下旬~12月上旬 [14時間] [13時間]

【単元の目標】

- 代表値の意味や求め方、度数分布表や柱状グラフ、統計的な問題解決の方法を理解し、目的に応じて集めたデータの特徴や傾向に着目し、問題の結論や妥当性について批判的にとらえ考察するとともに、統計的な問題解決過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…代表値の意味や求め方、度数分布表や柱状グラフのよみ方やかき方、目的に応じてデータを集めたり適切な方法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を理解している。
- 思・判・表**…身の回りの事象について、目的に応じて集めたデータの特徴や傾向に着目し、問題の結論や妥当性について批判的にとらえ考察して、その特徴を考えている。
- 態 度**…統計的な問題解決過程を振り返り、多面的に捉え検討して考えたり、学習や生活に活用したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 169)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 平均とちらばりのようす (P. 170~175) 3時間			
1	○資料の特徴を比べる場合の平均の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1組と2組のソフトボール投げの記録を比べる方法を考える。 資料の特徴を比べる場合の平均の意味を知る。 	
2	○ちらばりのようすを用いて、資料の特徴をとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を利用して、記録のちらばりのようすを表し、資料の特徴を話し合う。 	
3	○度数分布表をよみとったり、かいたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1組の記録をまとめた度数分布表をよみとる。 2組の記録を度数分布表にまとめる。 度数分布表にまとめた記録の特徴を話し合う。 	
2 区切りのあるグラフ (P. 176~177) 2時間			
4 ・ 5	○柱状グラフをよみとったり、かいたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 柱状グラフの意味を知る。 2組の記録を、度数分布表から柱状グラフに表す。 柱状グラフに表された記録の特徴を話し合う。 	
3 データを代表する値 (P. 178~181) 2時間			
6	○代表値としての平均値、最頻値、中央値の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校訪問に来た人たちの年齢から、その特徴を表す値について調べる。 	
7	○ドットプロットに表されたデータの特徴や傾向に着目して、代表値を使って判断し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 弁当屋の弁当の製造について、データをよみとって、自分の考えを説明する。 	
4 データの調べ方とよみとり方 (P. 182~192) 6時間			
8	○柱状グラフを組み合わせたグラフをよみとり、資料の特徴をとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1975年と2015年の男女別、年齢別の人口の割合を表したグラフをよみとる。 	
9 ~ 13	○これまでの学習を振り返り、統計的な問題解決の方法を整理し、まとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 「問題→計画→データ→分析→結論」という流れになっている統計的な問題解決の方法を整理する。 	

		・どのマスコットを選ぶかを例にして、統計的な問題解決の方法を確かめる。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
14	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.193)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

● 活用 [「一汁三菜」の献立を考えよう] (P.194~195) 12月中旬 [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○和食の献立「一汁三菜」について調べ、調べたことを説明することができる。	・和食の献立「一汁三菜」について調べる。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

● 活用 [つなげ！ 勝利のバトンパス] (P.196~197) 12月中旬 [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○表で表された400mリレーのバトンパスに関する資料を調べ、わかったことを説明することができる。	・400mリレーのバトンパスに関する資料について、いろいろな観点で考察する。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

● 算数アドベンチャー [好きな給食や将来の夢は何か] (P.198~199) 12月中旬 [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○たくさんの情報の中から、わかっていることを手がかりに関係を整理し、筋道立てて問題解決することができる。	・好きな給食や将来の夢について示された情報を整理して、わかったことを表にまとめる。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

* 復習 (P.200~201) 配当時数なし

※	「復習」(P.200~201)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	--

● マテマランドを探検しよう！ (P.202~222) 1月中旬~2月上旬 [16時間] [4時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 ~ 16	○数学的な見方・考え方やアイデアを適用することを通して、算数の楽しさ、よさ、不思議や面白さにふれるとともに、算数を生活や学習に活かす力や態度を育てる。	・「マテマランドの探検」の課題への取り組み方を知る。 ・「パズルエリア」「歴史エリア」「ふしぎエリア」から好きなエリアを選び、学習を進める。	・初めの1時間で、教科書P.202-203を使って、学習の進め方を確認する。 次に、各エリアで1テーマずつ3テーマ選択し、各1時間合計3時間は授業で取り扱う。その際、個人学習とするかグループ学習とするかは、各学校の実態によって判断する。 ・それ以外のテーマは、教師用指導書のワークシートなども活用して、学校の授業以外の場で取り組ませる。

● 6年間のまとめ (P. 223~232) 2月中旬~2月下旬 [12時間] **[3時間]**

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 ~ 12	○小学校6年間の学習内容 についての理解を確かな ものにする。	・小学校6年間の学習内容を確認 する。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわから なかった問題は、個別に支援する。 ・「B-1 図形」「C-3 割合」など、学級 の子どもが苦手とする内容を3つ特定する。 それらの内容については、再度授業で取り上 げ、ていねいな指導を実施する。

● もうすぐ中学生 (P. 233~240) 3月上旬 [7時間] **[0時間]**

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 ~ 7	○中学校で学習する数学の 内容について、関心を持と うとする。	・算数の学習を発展させた中学数 学で学ぶ内容の一部を知る。	・P. 233~240を読み、興味を持ったことや調べ たいと思ったことなどをノートにまとめさ せる。